


果  
た  
さ  
れ  
る

亡<sup>☆</sup>王  
み  
の


な  
い  
約  
束





非現実的で  
非科学的  
かつ感傷的であり

過剰に詩的で陳腐で  
おまけに失礼なので、  
俺は到底  
好きじゃない表現だが



月皇遥斗こそ  
神に愛された人間だ

——と、雑誌の評で  
誰かが言っていた

そう

「天才」と  
同じくらい  
失礼な言葉だ

果たされる

亡王みのない約束

でも

よくわかってしまう

神は兄だけを愛し

俺は同じ舞台には立てない

遥斗とつくに  
帰って来てる  
はずだったんだりと

連絡が  
ないのよ

携帯も  
出ないのか？

だから  
ついでに  
タクシー回して  
見てさてくれな

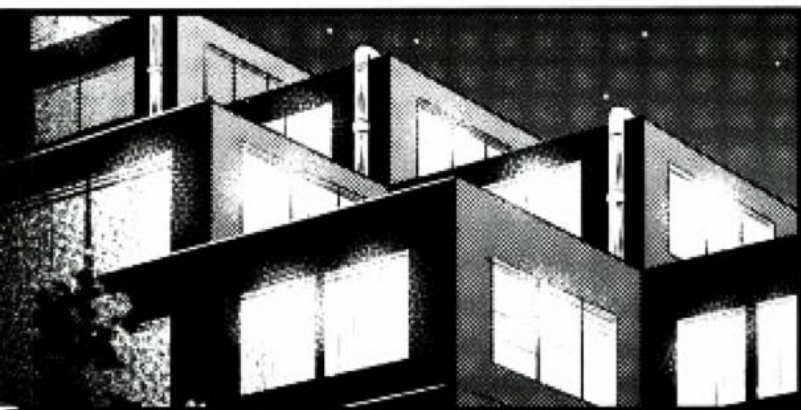
わかったよ  
いたら  
連れてくから

心配しないで

すみません、  
行き先変更して  
今から言う住所に……

ハイ

珍しいな  
連絡が  
つかないなんて







いつからこんなに  
差がついてしまったのだろう



皆が騒ぎたてる  
ずっと前から  
兄は俺だけの  
スターだった



昔はもっと、  
いつでも一緒に

だが兄の  
人が兄の  
才能に  
気づき  
始めると



俺との距離は  
少しずつ  
広がって



俺の手の届く  
世界からいなくなった



やがて兄は  
綾雫学園の寮に入り



170  
ん.

海斗が呼んだら  
いつでもとんで  
帰ってくるよ

俺をあやす  
言葉とは裏腹に

俺たちの立つ場所は  
より遠くなっていた

そう——最近やっと  
思い出したものがある

劣等感と  
向き合える  
ようになって  
自覚した

ぎゃあ……

妬ましさのもつと  
根底に沈んでいた  
幼稚な感情

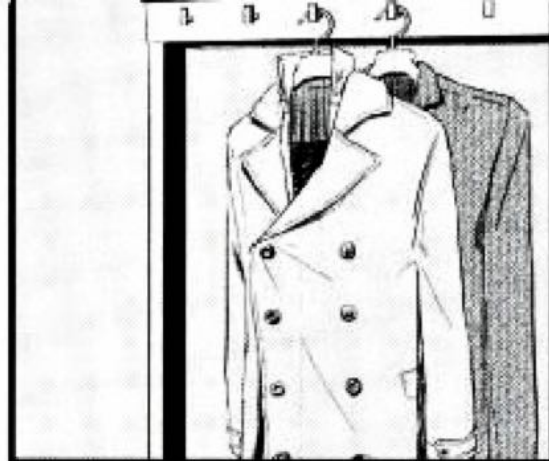
あれ……どうして  
海斗がいるのかな

ん……

海斗……？

は









弟にフロホーズ  
するなよ...

どう?  
考えてみない?

海斗が毎日「お疲れ様」って  
出迎えてくれたら疲れも  
吹き飛ぶのになあ

ちよつと  
兄さん

ニ ン



あはは

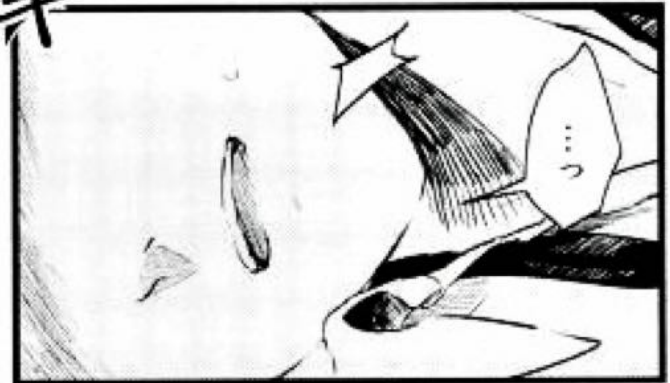
はあ.....

人の気も  
知らないで...











人

ア

知られては

いけなかった  
いけなかった

はずなのに

はずなのに





良いんだよ  
海斗

悪いのは  
兄さんの方



お前は何も  
悪くない

俺が望み  
すぎたんだ





アルコールが



理性を溶かして  
くれるんじゃないかって

少し期待  
したんだけど



ダメだな  
こんな  
中途半端じゃ



お前を困らせる  
ばかりで





聞  
か  
な  
か  
っ  
た  
こ  
と  
に  
で  
き  
な  
い  
よ

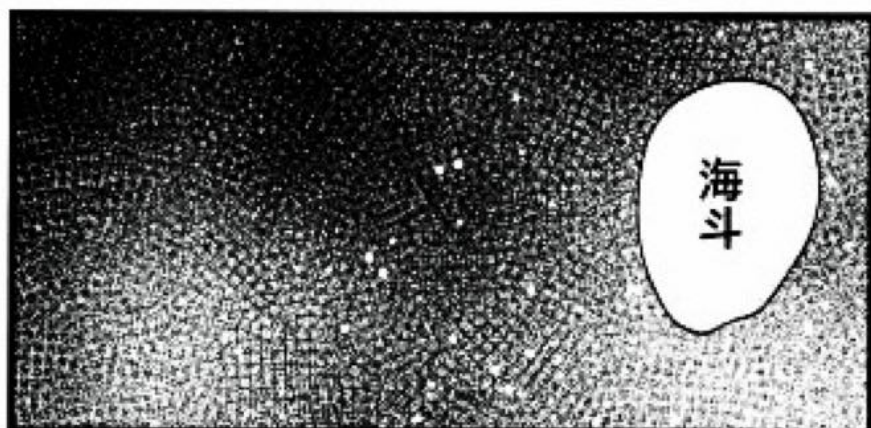
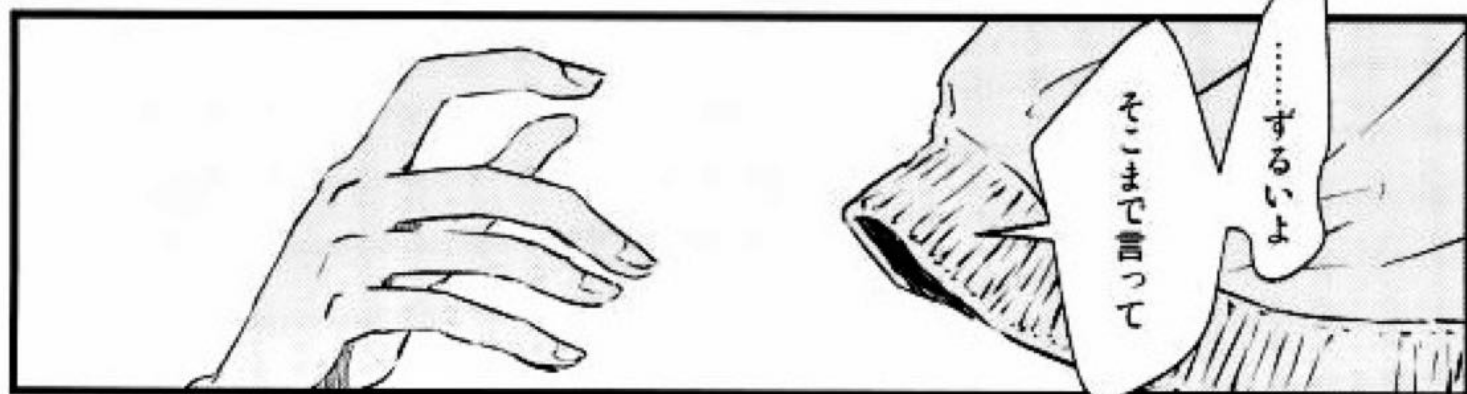


兄  
さ  
ん  
…  
…



なんでもないよ







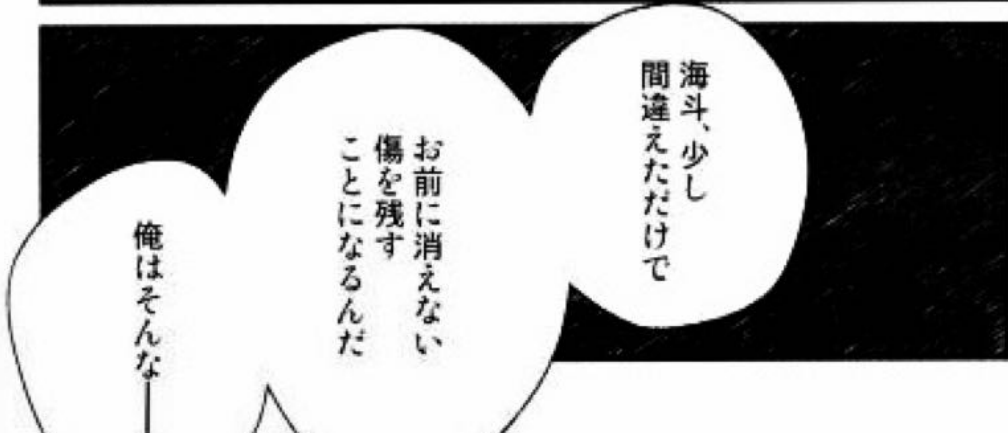
俺の人生を先回りして  
お節介焼くのやめろよ



あ  
ちがう...



……こんなこと  
いうつもりじゃ...



海斗、少し  
間違えただけで

お前に消えない  
傷を残す  
ことになるんだ

俺はそんな





兄さんが  
誤ったっていう傷が……



その傷が  
欲しいんだ！



海斗...

自分だって...  
したじゃないか



兄さん



ダメだよ





子供じゃないんだ  
自分が何を  
やってるか  
くらいわかる！

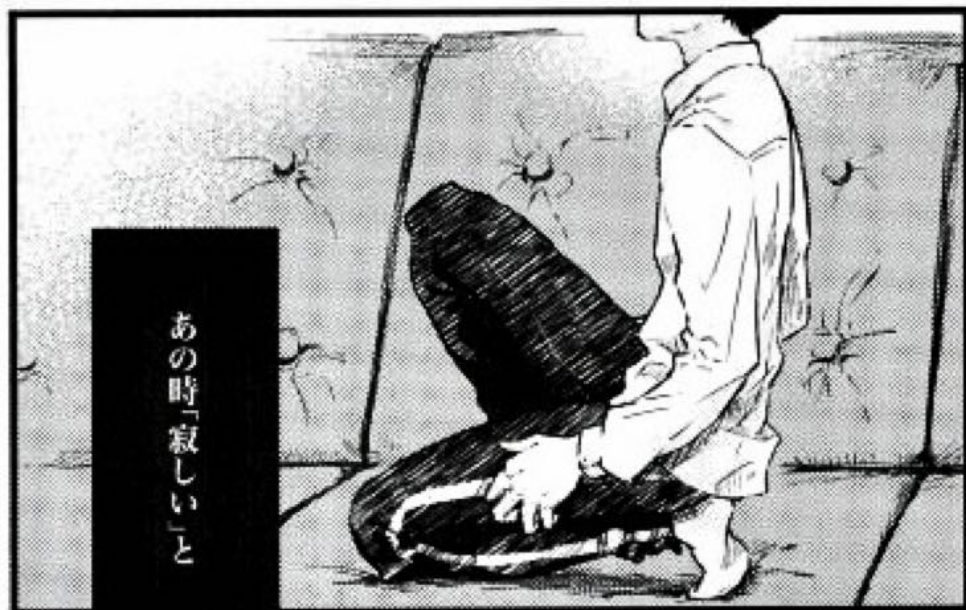


そう？

でも俺は  
大人なんだ



置いっ—



あの時「寂しい」と



置いていかないで



一言も口に  
しなかった弟が

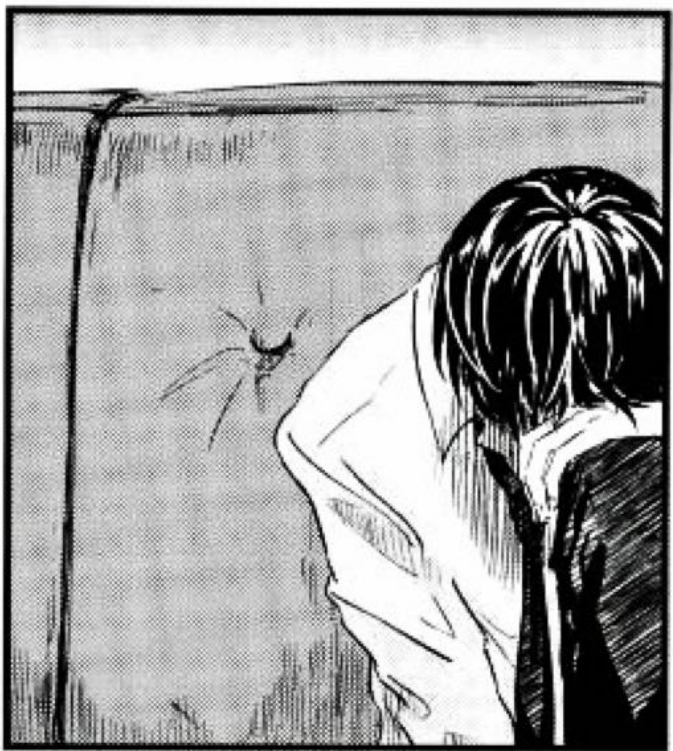
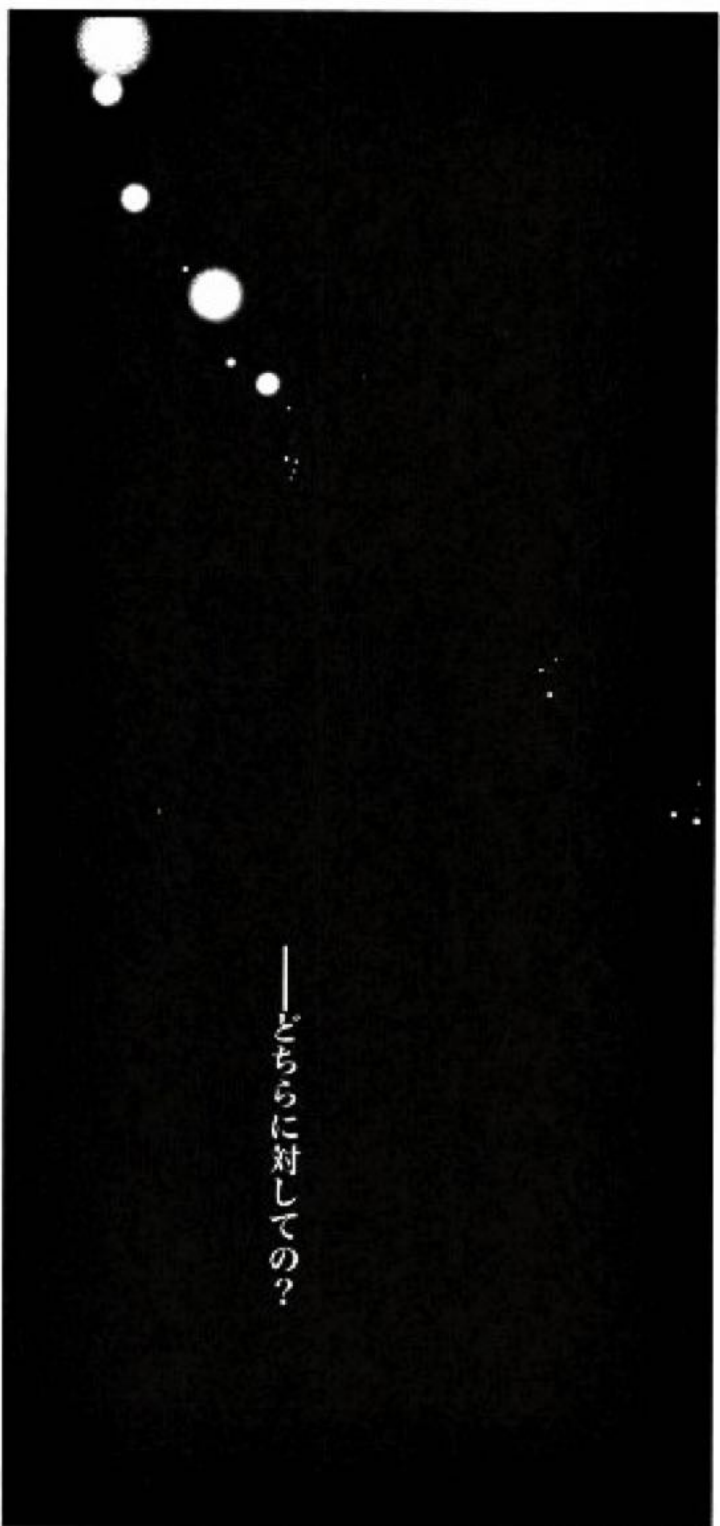


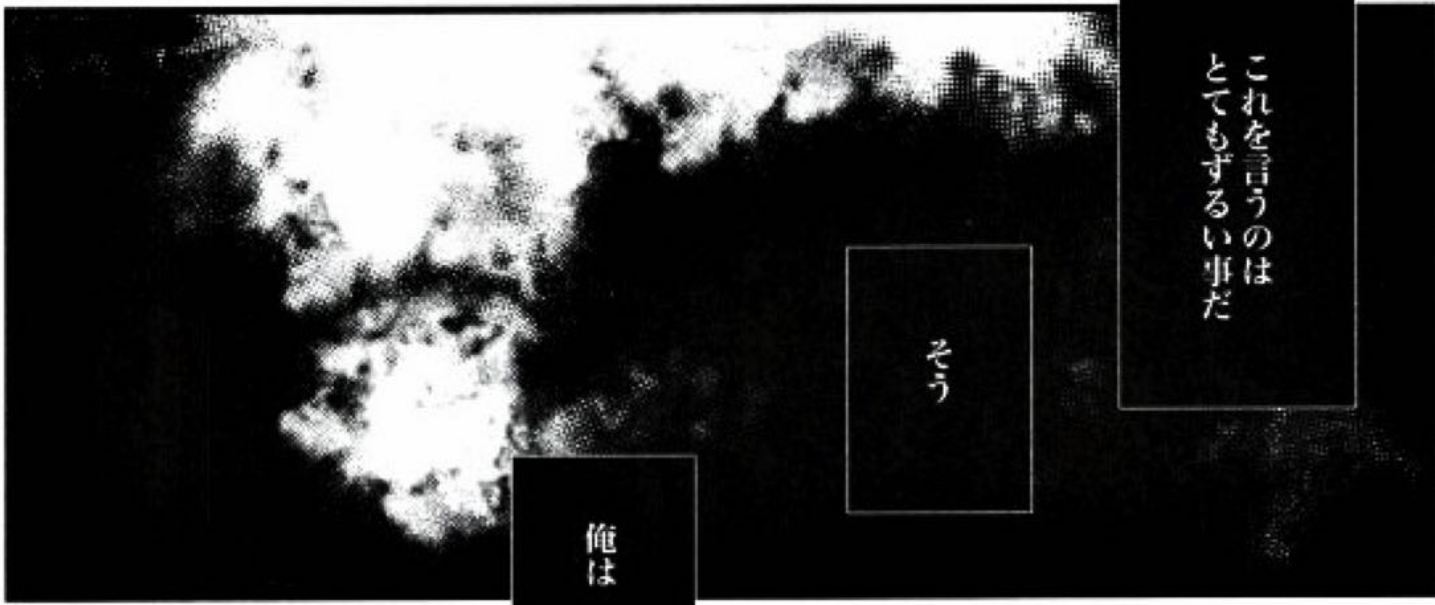
手を伸ばして  
くれているのに――

これは  
慰めでしかない

もし海斗が大人に…  
二十歳になって

何を言おうと  
している？





これを言うのは  
とてもずるい事だ

そう

俺は

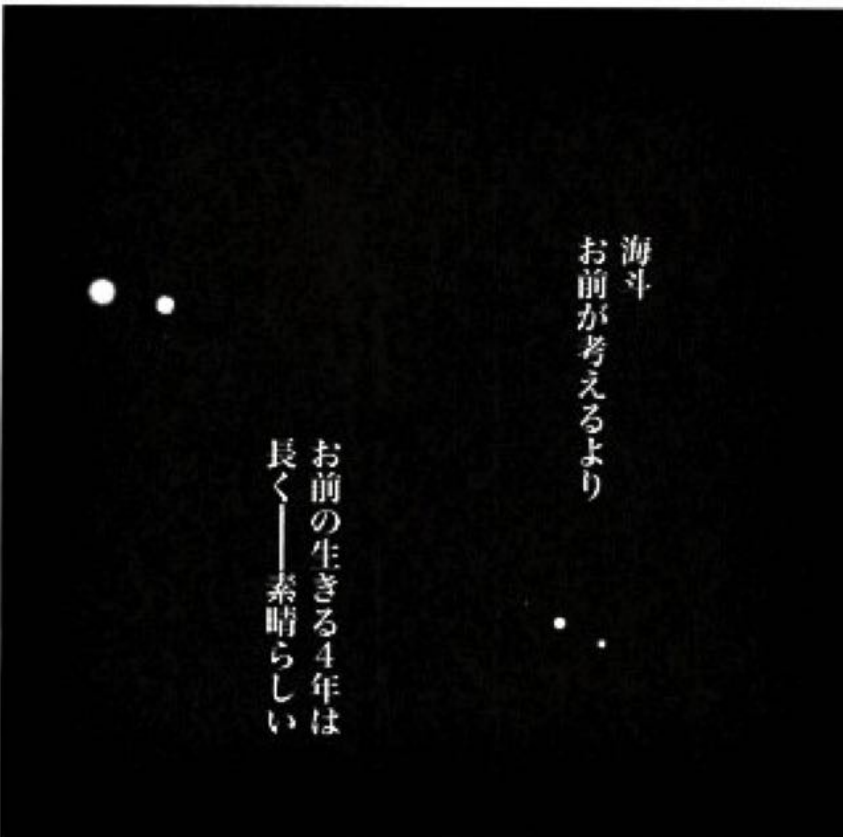


ずるいんだ

その時は  
応えるよ



俺の……  
本心で



その間にお前は  
想像もしなかったような  
広い世界に

輝かしい世界に接し

鳳や星谷君たちと  
出会ってお前が  
変わったように

これからも  
何人もの  
魅力的な  
人たちと出会い

やがて誰かと  
惹かれ合って

恋に落ちて

俺への想いを  
忘れるだろう

いつか  
若かった折の  
過ちとして  
笑い話にできる





それで良い

それ以上は  
望むべくもない



だからそれまで  
今日みたいな  
ことはナシだ

俺も  
お前も



それ以上の  
存在

可愛い弟

ありがとう  
海斗



もう何も  
言わない  
しない

…良いな？



ありがとう  
俺のために  
傷つけてくれて



胸を痛めて  
くれて



……わかった……



それで  
俺は充分  
満たされるべきで

もし俺に  
神か何かの寵愛が  
あるというなら



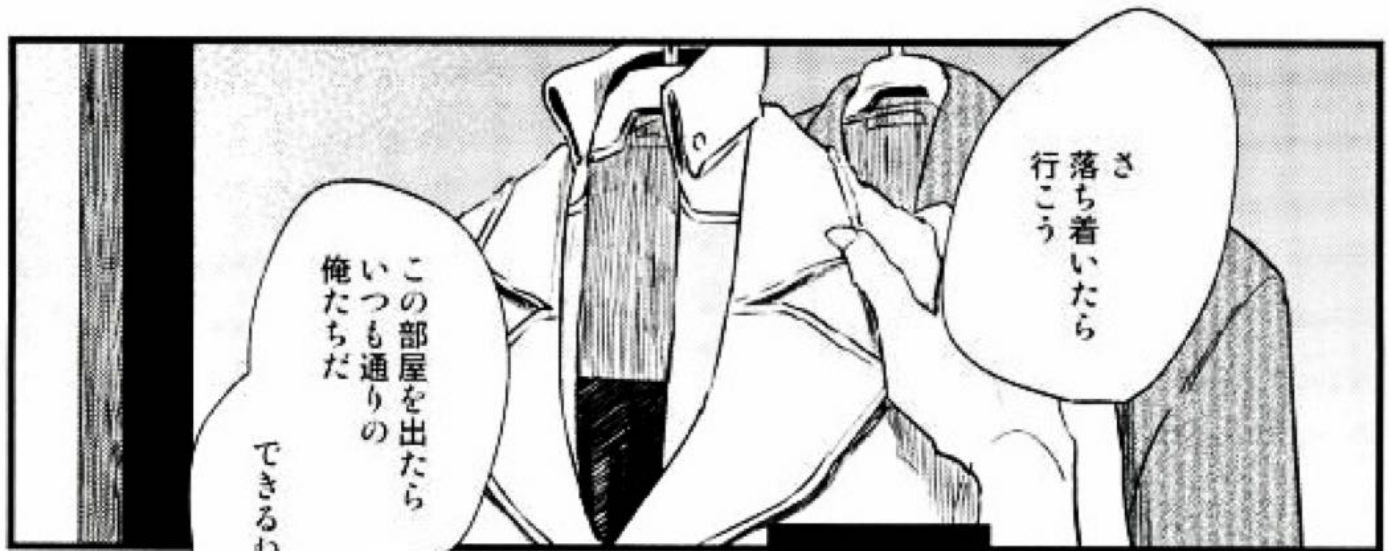
まるごと全部明け渡して

お前の行く先に  
光があることを  
願っているよ

できるだけのことはする  
幸せになってくれ

ただそれだけが  
俺の願い

だから





ありがとう海斗、

さようなら。



2016.4.24 Hakidame